

元農産第1464号
令和元年9月10日

各関係機関、団体長 様

愛媛県農林水産部長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察警報（第1号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和元年度 病害虫発生予察警報（第1号）

令和元年9月10日

愛媛県

病害虫名 トビイロウンカ
作物 水稲（普通期栽培）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 多
- 3 警報発表の根拠

- (1) 8月下旬から9月上旬にかけて、県下の普通期栽培を中心に広域調査した結果、発生圃場率58.8%（平年の6.3倍）、10株当たりの成・幼虫数16.2頭（平年の23.1倍）、短翅雌成虫の発生圃場率32.0%（平年の160倍）と、極めて高くなっている（表1）。
- (2) 地域別では東・中予に比べ南予の発生密度が高く、現時点の要防除密度（10株当たり成虫数が30頭）を超えている圃場の割合は、東予で0.6%、中予で1.4%、南予で8.6%となっており、平年の3～43倍と極めて高くなっている（表1）。
- (3) 発生圃場率は過去10年間で最も高く、多発年の平成25、26年と比較しても約2倍と高くなっている（図1）。
- (4) 注意報発表時点（8月28日）と比較すると、発生圃場率は約37倍、短翅雌成虫発生圃場率は23倍、要防除密度の圃場率は5倍となり急増している（図2）。
- (5) 県下の圃場では“坪枯れ”が9月上旬より発生しており、発生時期は早い（写真1、2）。
- (6) 高松地方气象台発表（9月5日）の1か月予報では、気温は高いとされており本虫の増殖に好適である。

4 防除上の注意

- (1) 本虫は、株元で局所的に世代を繰り返し、急速に密度を高めて坪枯れ被害を引き起こす（写真3、4）。また、圃場間・圃場内で発生に偏りがあることに留意し、発生状況を把握して早期発見に努める。特に、圃場の中で坪状にやや茶色を呈する箇所は坪枯れの可能性が高いので注意する。
- (2) 既に要防除密度（10株当たりの成虫数が30頭以上）に達している圃場では、直ちに防除を行う。また、今後の仕上げ防除（出穂10～15日後）は必ず実施し、その後も株元に本虫が確認され、坪状にイネが黄化してくる場合には追加の緊急防除を実施する。
- (3) 本虫が生息する稲の株元に薬剤が十分届くよう丁寧に散布する。
- (4) 坪枯れ被害の発生圃場では、可能な限り収穫を早めて被害の拡大を防ぐ。
- (5) 薬剤は県防除指針を参照し、適用作物、使用回数、使用時期、使用量、使用方法等の使用基準を遵守する。また、風向き等に注意し周辺作物への飛散防止を念頭に置き、周辺環境（ミツバチ等）へ配慮する。

表1 広域調査におけるトビイロウンカの発生状況(令和元年度)

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)	成・幼虫数/10株	短翅雌成虫発生圃場率(%)	要防除密度に達した圃場率(%)
東予	448	271	60.5	10.4	29.9	0.6
中予	167	80	47.9	9.9	29.3	1.4
南予	36	32	88.9	28.2	69.4	8.6
県全体	651	383	58.8	16.2	32.0	3.5
平年	633	58	9.3	0.7	0.2	0.2

- 1) 平年値はH21～30年の10年平均。
- 2) 調査は、8月下旬から9月上旬に実施。
- 3) 要防除密度:10株当たりの成虫数が30頭以上。

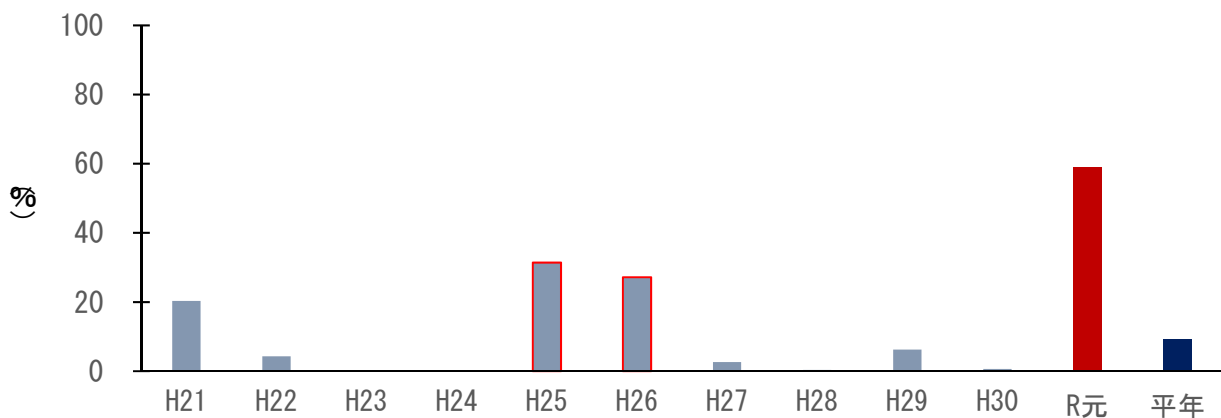


図1 広域調査におけるトビイロウンカの発生圃場率の推移 (H21～)
H25、26年はトビイロウンカ被害の多発年

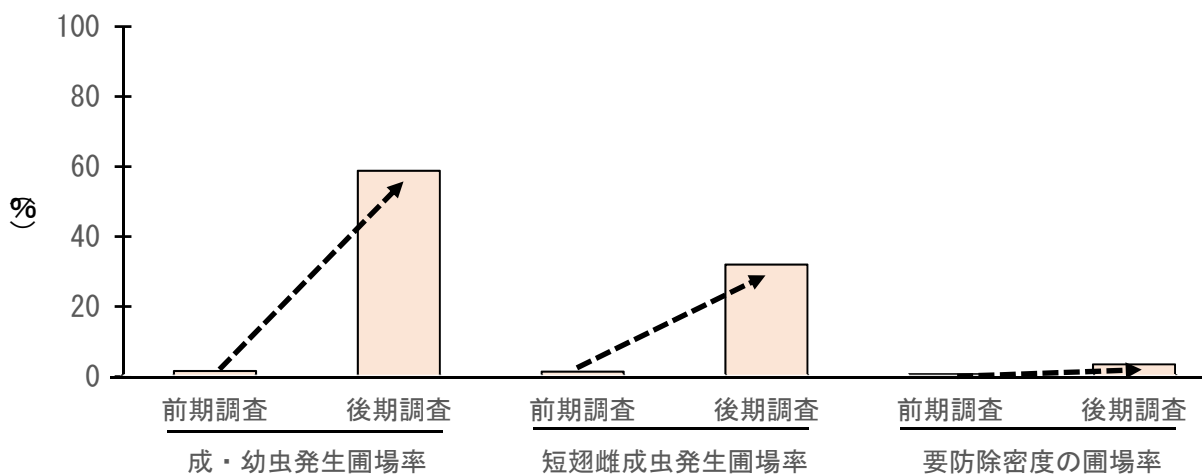


図2 令和元年度の広域調査におけるトビイロウンカの発生推移 (全県)

前期調査：7月下旬～8月中旬、県下430箇所調査。

後期調査：8月下旬～9月上旬、県下651箇所調査。

要防除密度：前期調査；短翅雌成虫数20～30頭/100株、後期調査；成虫数30頭/10株

※要防除密度を超えると9月中旬以降に「坪枯れ」の発生につながる。



写真 トビイロウンカ（1,2：坪枯れ 3,4：株元に寄生する成幼虫（2019年9月撮影））

（参考）現時点で防除効果の高い薬剤（県防除指針より）

農薬名 （商品名）	成分名	剤型			希釈倍率	使用時期	散布量 （10a当たり）	使用回数
		粉剤	液剤	粒剤				
トレボン	エトフェンプロックス	○			—	収穫7日前まで	3~4kg	3回以内
			○(乳剤)		1000~2000倍	収穫14日前まで	60~150L	
			○(EW)		1000倍			
アルバリン	ジノテフラン	○			—	収穫7日前まで	3kg	3回以内
			○		3000倍		60~150L	
				○	—		3kg	
スタークル	ジノテフラン	○			—	収穫7日前まで	3kg	3回以内
			○(液剤)		1000倍		60~150L	
			○(顆粒水溶剤)		3000倍			
				○	—		3kg	
			○ (豆つぶ)	—		250~500g		